

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 27日

所属・職名	商経学部・専任講師	氏名	櫻井 聡
研究課題	消費者行動の計量分析		
研究キーワード	消費者行動、参照価格、ブランド選択モデル ブランド論	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>主要な研究テーマは2つある。ひとつは参照価格の研究で、もうひとつはブランド論である。両者ともメンバーは異なるが、大学院時代の指導教官および同僚との共同研究である。</p> <p>参照価格の研究では、それ以前の研究成果を発展させること、特にベイズ統計への適応、およびより精緻な因果関係の検証方法の検討を行った。しかしながら、近年の研究の流れとして、最高支払意志額（WTP: Willingness to Pay）へ焦点が移りつつあること、高度化と多様化を続ける、統計的手法、利用可能なデータ、および分析用アプリケーションにより、理論研究も実証研究方法も大きく見直す必要があるとの見解に達した。この点において遅れが生じた。</p> <p>ブランド論の研究では、約4年前から収集・蓄積し続けている定性データの探索的分析をいくつか行った。データは自由回答形式の内容なので、コーディングなどのデータ生成過程と、データ生成後の定量的分析にも注意が必要であるが、KH-Coderなどのソフトウェアの勉強会などを開き、発表段階には至ってないが一定の進捗があった。また、この共同研究者とその本務校の研究者と、2019年のラグビーW杯において神奈川県ジュニアラグビー選手を対象にした大規模調査を行い、ベイズ統計やテキストマイニングで分析し、学会発表を行った。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【学会発表 1】「国際スポーツイベント開催における子ども達の観戦行動と心理的变化の測定」（共同研究）、2019年11月10日、第63回日本経営システム学会、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス</p> <p>【学会発表 2】「国際スポーツイベント開催における子ども達の心理的变化に対するテキストマイニング」（共同研究）、2019年11月10日、第63回日本経営システム学会、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス</p> <p>3. 主な経費</p> <p>ノートPC故障（修復不可レベル）のため、新規にノートPCおよびストレージ等の周辺機器を購入した。春学期・秋学期とも数回の学会研究発表大会へ参加費として使用した。収集した定量および定性データの分析のため、統計ソフトを中心とした関連するソフトウェアないし書籍、あるいは文具の購入に使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【科学研究費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基盤研究（C）：平成30年度～令和4年度、分担、課題名「消費者の自己表現と自発的ブランディングの理論と実証」（18K01881） <p style="text-align: right;">（本文は1ページ以内にまとめること）</p>			